

Q15 キャリア教育と人権教育との関係はどのようなものですか。

5 **A** キャリア教育は、児童生徒が自らの立場や役割を、日々の学校での参加や体験、社会での職場体験等を通して理解するとともに、働くことや生きることへの価値を自らが見いだしていく教育活動であり、その方法やめざす資質や能力は人権教育と重なります。

【キャリア教育とは】

10 キャリア教育は「『キャリア概念』に基づいて、『児童生徒一人ひとりのキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育』。端的には、『児童生徒一人ひとりの勤労観、職業観を育てる教育』とされ、「進路指導の取組はキャリア教育の中核」と位置づけられています。

15 これまで、進路指導は進路決定を目的とした出口指導にとどまる傾向にありました。しかし、キャリア教育は、児童生徒が学校や家庭、地域社会における自らの立場や役割を、日々の学校での参加や体験、社会での職場体験等を通して理解するとともに、働くことや生きることへの価値を自らが見いだしていく教育活動です。

【キャリア教育と人権教育】

20 「キャリア教育推進の手引」（平成18年11月）では、キャリア教育では、主に四つの能力〔人間関係形成能力 情報活用能力 将来設計能力 意志決定能力〕を小学校から高等学校まで、その発達段階に応じて身に付けることが期待されています。

「第三次とりまとめ」では、人権教育を「人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を基盤として、意識、態度、実践的な行動力など様々な資質や能力を育成し、発展させることを目指す総合的な教育」とし、人権教育を通じて培われるべき資質・能力を三つの側面（①知識的側面、②価値的・態度的側面及び③技能的側面）として捉えています（在り方編P5）（Q3参照）。

25 また、人権教育の教育課程の編成に当たっての留意点として「進路指導と関わらせる」とし、「進路指導の機会等を通して長期的・広域的視野から人権教育を推進する」と示しています（在り方編P12）。

30 この人権教育での「人権感覚」やキャリア教育での「勤労観、職業観」は、児童生徒が自分で「感じ、考え、行動する」こと、つまり「自分自身の心と頭脳と体を使って」こそ身に付くものです。キャリア教育での「体験活動」は、「第三次とりまとめ」が示す『協力』『参加』『体験』的な学習場面と重なります（Q10参照）。

このように、キャリア教育はその方法やめざす資質・能力において人権教育と重なります。

これまで人権・同和教育の観点から取り組まれてきた「働くこと」「生きること」をテーマとした身近な大人への聞き取り、また、高等学校等で取り組まれてきた統一応募用紙の制定、公正な採用選考の取組の経緯や意義についての学習は、キャリア教育の取組ともいえます。

35 さらに「高等学校段階においては、進路指導・キャリア教育の中で、人権に関わる教育を積極的に組み入れていくことが重要」（在り方編P21）と示しており、これまでの取組に加えて「労働基本権に関わる学習」、「奨学金に関わる学習」なども組み込むことが可能です。

ふりかえり

40 「働く」ことの大切さを児童生徒に伝えるために、あなたはどのようなことに取り組んでいますか。または、取り組みればよいと考えますか。

参考資料 「キャリア」概念

「個々人が生涯にわたって遂行するさまざまな立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」

「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」（平成16年1月）

「キャリア」とは、一般に生涯にわたる経歴、専門的スキルを要する職業についていることなどのほか、解釈、意味付けは多様であるが、その中にも共通する概念と意味がある。それは、「キャリア」が、「個人」と「働くこと」との関係の上に成立する概念であり、個人から切り離して考えられないということである。また、「働くこと」については、職業生活以外にも家事や学校での係活動、あるいは、ボランティア活動などの多様な活動があることなどから、個人がその学校生活、職業生活、家庭生活、市民生活等のすべての生活の中で経験する様々な立場や役割を遂行する活動として幅広くとらえる必要がある。「キャリア教育推進の手引」（平成18年11月）

参考資料 キャリア発達にかかわる諸能力（例）

領域	領域説明	能力説明
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【自他の理解能力】自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力
		【コミュニケーション能力】多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【情報収集・探索能力】進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力
		【職業理解能力】様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならないことなどを理解していく能力
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	【役割把握・認識能力】生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力
		【計画実行能力】目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	【選択能力】様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力
		【課題解決能力】意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力

（国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」から一部改訂）